

敬語の指針

- 平成十九年二月二日文化審議会答申から抜粋。
- 敬語については、昭和二十七年四月一日日に「これからの敬語（建議）、平成二十二年二月八日に「現代社会における敬意表現」（答申）が国語審議会によって行われているが、平成一七年、文部科学大臣より「敬語に関する具体的な指針の作成について」が諮問され、それを受けたもの。「現代社会における敬意表現」の考え方を引き継ぎ、特に敬語について検討された。

- 原文は「第1章 敬語についての考え方」「第2章 敬語の仕組み」「第3章 敬語の具体的な使い方」からなるが、実際の運用にかかわる第2章について省略収録し、その他は項のタイトルを示すなど、三省堂編修所で編集した。
- 原文は横書き。
(三省堂編修所注)

第1章 敬語についての考え方(省略)

- 第1 基本的な認識 (1)敬語の重要性 (2)「相互尊重」を基盤とする敬語使用 (3)「自己表現」としての敬語使用)
- 第2 留意すべき事項 (1)方言の中の敬語の多様性 (2)世代や性による敬語意識の多様性 (3)いわゆる「マニュアル敬語」 (4)新しい伝達媒体における敬語の在り方 (5)敬語についての教育)

第2章 敬語の仕組み(抜粋)

第1 敬語の種類と働き

- 本指針では、敬語を、次の五種類に分けて解説する。
- 1 尊敬語
(「いらっしゃる・おっしゃる」型)
 - 2 謙讓語Ⅰ
(「何う・申し上げる」型)
 - 3 謙讓語Ⅱ(丁寧語)
(「参る・申す」型)
 - 4 丁寧語
(「です・ます」型)
 - 5 美化語
(「お酒・お料理」型)
- これらの五種類は、従来の「尊敬語」「謙讓語」「丁寧語」の三種類とは、以下のように対応する。

	五種類	三種類
尊敬語	「いらっしゃる・おっしゃる」型	尊敬語
謙讓語Ⅰ	「何う・申し上げる」型	謙讓語
謙讓語Ⅱ(丁寧語)	「参る・申す」型	謙讓語
丁寧語	「です・ます」型	丁寧語
美化語	「お酒・お料理」型	丁寧語

敬語の仕組みは、従来の三種類によっても理解できるが、敬語の働きと適切な使い方方をより深く理解するためには、更に詳しくとらえ直す必要がある。そのために、ここでは、五種類に分けて解説するものである。

- 以下、五種類の敬語の働きについて解説する。
- 1 尊敬語(「いらっしゃる・おっしゃる」型)
相手側又は第三者の行為・ものごと・状態などについて、その人物を立てて述べるもの。